

## 令和3年度第3回 岐阜県生涯学習審議会 議事録

日 時	令和4年2月16日（水） 10:00～11:45
場 所	岐阜県シンクタンク庁舎1階 第2会議室よりオンライン会議
出席者	<p>&lt;委員&gt; 11名（欠席委員2名）  浅野委員、菊本委員、後藤委員、小林委員、内木委員、丹羽委員、福田委員  野原委員、米原委員、若岡委員</p> <p>&lt;県&gt; 5名  尾崎環境生活部次長、山田環境生活政策課長、長屋環境生活政策課生涯学習企画監、  山田環境生活政策課課長補佐兼係長、岩田環境生活政策課課長補佐</p>

会議の概要	
1	開会
2	<p>挨拶  （尾崎環境生活部次長）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症の影響により、昨日は過去最高の感染者数となった。「まん延防止等重点措置」も延長とあり大変厳しい状況である。県では特に保健所による感染者等への対応と支援等、市町村との連携を図りながら新型コロナ対応に力を注いでいる。</li> <li>・県としては、様々な学びの機会が失われることないようオンラインを活用し、施策の推進に取り組んでいるところである。</li> <li>・本日は、改訂「生涯学習振興指針」の素案についてご検討いただく。これまでの審議会において、委員の皆様からいただいた貴重なご意見を踏まえて内容を検討してきた。</li> <li>・本日は委員の皆様の日頃のご実践を踏まえ、忌憚のないご意見・ご助言をいただきたい。</li> </ul>
3	<p>会長挨拶  （丹羽会長）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まん延防止等重点措置の延長により暗いニュースが続く中、若者が活躍している場面を目にしている。</li> <li>・オリンピックでの選手の活躍にも感動している。昨日は、岐阜市出身の村瀬さんがスノーボードで銅メダルを獲得した。藤井5冠のニュースもうれしいものであった。</li> <li>・若者がモチベーションを保ちながら精一杯活躍している姿に心からエールを送りたい。</li> <li>・本日は、「生涯学習振興指針」の大詰めとなる会議である。委員の皆様からはそれぞれのお立場、ご経験からご意見を賜り、議事の進行にご協力いただきたい。</li> </ul>
4	<p>報告  （1）令和3年度 事業報告について  事務局による説明を行った。  ・委員意見なし</p>
5	<p>議事  （1）令和4年度 事業計画(案)について  事務局による説明を行った。  （小山委員）  ・公民館活動研修会を新規で加えた経緯について知りたい。  （事務局）  ・公民館における課題として、関係者の人員減少や人材育成がある。</p>

・具体的な活動例等を提案し、支援したいと考え、立ち上げた研修会である。

(小山委員)

・「地域づくり型生涯学習」講座コーディネート事業の拡充について知りたい。

(事務局)

・これまでは年度末に県内へ周知し、市町村からの申請を待つ流れであった。

・内容については、市町村のニーズに応えるために、幅広く受け付けていた。

・今後は、具体的に内容を提案、広報していくため、拡充としている。

(小山委員)

・「地域づくり型生涯学習」講座コーディネート事業とGIFU生涯学習メールマガジンの双方を連携、活用し、情報提供していけるとさらによい。

(丹羽会長)

・県民の皆様がより多く届く意見をいただいた。積極的な意見に感謝する。

## (2) 岐阜県生涯学習振興指針の改訂について

事務局による以下の説明を行った。

・前回までは全体の構成案、概要、基本理念、施策の方針についてお示しした。

・今回は、前回までの委員の皆様のご意見と庁内各課の意見を反映させ、第1章から第4章まで詳細をご提案させていただく。

・趣旨について、特に社会情勢の変化、人々の生き方や価値観の多様化、人生100年時代、SDGs、新型コロナウイルス感染症による環境変化といったキーワードをあげて示した。

・委員のご意見、県政モニターの結果より「地域づくり型生涯学習」について具体的に示した。

・SDGsについて、目標4「質の高い教育をみんなに」と目標11「住み続けられるまちづくりを」を大切に策定にあたった。

・ICTの活用のみならず、対面での学習機会を効果的に組み合わせる視点を再度確認した。

・社会教育士、ぎふ地域学校協働活動センターについて、具体的な説明を付加した。

・前回ご意見いただいた「だれがどのような活動をするのか」について、第3章「各主体に期待される役割」の項にて具体的に示した。

・推進体制、進行管理について、第4章にて示した。

・参考資料として、社会情勢の動向と県の生涯学習の現状について示した。

また以下のとおり発言があった。

(丹羽会長)

・趣旨に生涯学習振興指針の変遷が示されている。これまでも「地域づくり型生涯学習」というワードがあったが、委員一人一人の理解度に違いがあるのではないかと思うところがあった。今回、岐阜県が進めていく「地域づくり型生涯学習」について、図表を用い2つの役割をあげて非常に分かりやすく示されている。その点をベースに置きながらご意見をいただきたい。

(小山委員)

・コーディネーターの育成事業を行うことでどのような人材が育成されるのか。

(事務局)

・当課のみならず、庁内各課が様々な分野のコーディネーターの育成を進めている。各課の人材育成事業も含めながら進行管理していくことを考えている。

・具体例としては、県民生活課による「地域づくり人材養成講座」や「地域の課題解決応援事業」がある。防災の分野においても指導的な立場の人材を育成する取組も展開されている。

(小山委員)

・生涯学習の講座を展開する際に、講座を支える人材（講師）の育成支援や、講師に頼ることなく人材育成が広がる仕組み、支援の在り方について知りたい。

・様々な分野を関連付けた講座内容を提供していくような仕掛けはこの指針のどこに示されているのかを知りたい。

(丹羽会長)

・8ページに人材の養成にかかわる内容が記載されている。

・生涯学習の視点はかなり広い。コーディネートする人材自体が様々にコラボしていくことが大切になってくる。

(米原委員)

- ・前回の意見を反映していただき、非常に分かりやすいものとなった。私自身、「地域づくり型生涯学習」についてピンとこない部分があった。昨年の生涯学習社会教育総合推進研修会において、公民館主事の方の発表があり、地域における学びを展開している様子がよく理解できた。
- ・社会教育士の説明に「人々の自由で自発的な学習活動である『学び』を社会のいたるところにたくさん仕掛け」とある。これが二次的に地域づくりにつながり、社会全体が住みやすくなっていくのだと理解できた。わかりやすい指針になっている。

(浅野委員)

- ・「地域づくり型生涯学習」の項にある「個人の生活」と「社会的生活の充実」の2つの内容が大変わかりやすい。
- ・県政モニター図表6にある「仕事や家事が忙しくて時間がない」は、自分と重なるところがある。住んでいる町における生涯学習への参加と、職場のある地域での生涯学習への参加がある。生活のリズムからみると、「仕事が忙しいから参加できない」ということではなく、社会と交わる場が職場だとすると、そこで生涯学習にかかわるチャンスが広がってくると、多くの方が社会生活の中から生涯学習に結び付くことができると考える。
- ・「社会のいたるところに仕掛けがある」こととも関連し、何かに参加していくという視点が必要ではないか。

(内木委員)

- ・「地域づくり型生涯学習」のイメージがつかめていないところがあった。また、活動していることが「本当に地域づくり型生涯学習につながっていくのか」とはっきりと認識できないことがあった。2ページにある「地域づくり型生涯学習」の説明文章から、非常にスッキリとし整理することができた。ここをベースに指針全体をみると、内容がきめ細かく示されている。より理解しやすいものとなっている。
- ・「こんなことをしてみたい」、「これは社会に生かせるかもしれない」と役立つ道があるかもしれないと、読み手がもっているもの(力やスキル等)を具体的に生かす時に、これだけで道筋をつけることは難しい。指針はあくまでも概念であるため、実践編、もしくは自分の活動がどう社会につながっていくのかが分かるものがあるとよい。
- ・ICTを活用しデータで見ることができる仕組み(シンクタンク)をつくることも考えられる。その仕組みは県だけでつくるのではなく、市町村で集積したものを県が管理するという形で利用者が活用できるようにしていくことで指針が概念論だけでなく、具体的な実践編の入口として活用できる。
- ・理想であるが、集積した情報を公民館や学校、地域団体等が有用な情報をピックアップし、そこでアナログにした紙資料として配布するといった双方向で使えるものができるとうい。

(丹羽会長)

- ・11ページに「各主体に期待される役割」とある。それぞれの立場がどのようにかかわっていけばよいか示されており、非常に分かりやすくなっている。

(野原委員)

- ・資料を読み、スッキリとした形になっており、非常によいものである。
- ・生涯学習振興指針、方針と重点の中に、家庭教育という文言、家庭教育支援員の養成等が位置付けられている。8ページには「つながりづくりを担う人材の育成」とある。来年度も家庭教育市町村連携会議や家庭教育支援員養成スキルアップ研修会を展開しようとしている。新たな項目を起す必要はないが、家庭教育にかかわる内容を入れることでつながりが出るのではないか。
- ・3ページのポンチ絵について、連携・ネットワーク化ということが見やすくなっている。連携する中に、地域人材といったものも付加してもよいのではないか。
- ・丹羽会長からもあったが、「地域づくり型生涯学習」について大変わかりやすく示されている。これからの課題を考えると、7ページの(2)をどう展開していくかになる。地域の一人として自分がどう地域に位置づいていけるのかが課題となる。

(菊本委員)

- ・さまざまな人材については今までも示されていた。それぞれの立ち位置で活躍されている方もたくさんおられる。
- ・今回は社会教育士について示され、社会教育に関わる人材育成について強調されている。各市町村で実践されていく段階になった時に、地域人材をどう捉えていくのか。小さなコミュ

ニティの中でも地域づくり型生涯学習にふさわしい取組がされている。市町村の中で、こうした取組を活かしていくのが課題になってくる。指針の中では具体的に取り上げることは難しいが、ご検討いただけるとよい。

(福田委員)

- ・小さなつながりは身の回りにも多くある。それが大きな組織につながっていない。まちづくりにかかわる中でいつも課題として感じている。コーディネーターを育成することができればよいが、なかなか難しい。こうした点をまちづくりの中で具体的にしていけるとよい。

(小林委員)

- ・「人を拾う」ということが大事である。県は今、シーズになる方を多くつくっている。本来はニーズがあつてのシーズである。学びを生かす場が少ないためシーズを多くつくことで、互いにけん制しあつてしまう面がある。
- ・私自身は、生涯学習の手法を使って、環境教育を進めている。どの年代にも合うという点では生涯学習の手法はよい。生涯学習を展開している方は、学ぶだけでなく生かす場を作ることが必要だが作るのが難しい。
- ・「学びの循環」が示されているが、循環だけではない。私の場合は学びと実践が両輪だった。自らが望むことがあり、それに向かって実践の場を作ることも生涯学習の一つである。
- ・SDGsは「バックキャスト」の発想で作られている。生涯学習の現状から積み上げていく考え方は「フォアキャスト」現状に上乗せしたチャレンジであり「学びの循環」と同じの考え方だと思う。
- ・将来、こうありたい。そのためにどう学ぶべきかを考える方が「バックキャスト」である。「学びの循環」となると学び続けるのが生涯学習の感じを受けるため、少し窮屈感がある。
- ・公民館で防災を進める話題があつた。大切なことである。防災を展開するにも、周りを固める必要がある。「なぜ今、防災なのか」を考えた時に、気候変動や災害があるといった背景も学ぶことが生涯学習であると考え。生涯学習を活用する場の設定について入れていけるとよい。
- ・SDGsについて示されている。目標4、目標11はあるが、パートナーシップは抜けているのではないか。地域づくりには必要な目標である。
- ・SDGsを入れていくのならば、育っていった人を活用する場を示す必要がある。育ったばかりの人が活動の場を切り開くのは難しい。それを支えるシステムが示されるとよい。

(小山委員)

- ・人は基本的に学び続けるものである。学びの動機づけが興味関心なのか、社会課題に対するモチベーションなのかによって、学びに向かう姿勢が違ってくる。学びに向かう人には、何かを成し遂げたいと思っている人だけではない。多様な学びがあつていいといった感じがあるとよい。学びに向き合わなければならないといったものでなくてよい。人が生きるというのは、日々が学びの積み重ねというマインドセットでよいのではないか。

(小林委員)

- ・学びを促進している感じがする。生涯学習は途中で止めてもいいものである。様々な学びがあることを散りばめるとよい。循環という言葉で、ずっと学び続けるといった印象があることに苦しさを感じる。

(後藤委員)

- ・広範囲に渡って、丁寧にまとめていただいた。非常にすばらしいシステム、仕組づくりとしてよいものとなった。
- ・私はまちづくりの立場でこの場にいるが、一番地域の人たちに近いところで活動している立場として、広範囲に捉えたい。例えば公民館については令和3年度にクローズアップしていただいた。また令和4年度には社会教育委員についても言及されている。もともと生涯学習を進めてきたところについてはもっとクローズアップすべきである。
- ・PTAもまちづくり協議会も含め、観光協会も市民の地域理解、地域参画をすすめていこうとしている。
- ・近々、ガイドブックを作成する予定であるが、行政が行うのではなく、我々の仲間である市民が進めてきた。市民目線で文字だけでなく、動画のQRコードをガイドブックに含めて、動画と紙ベースを融合して作成している。地域に対する関心、愛着が芽生えてくることを実感している。
- ・シビックプライドが大事である。地域づくりの担い手が多岐に渡っている。行政サイドの仕

組みが出来上がったのちには、広範な団体に声をかけていただきたい。団体がお互いに交流等を進めていく中で切磋琢磨していけると市民目線の生涯学習が出来上がると考える。

(若岡委員)

- 本当によくできている指針である。
- 生涯学習を考えた時、地域と学校、家庭というキーワードがある。2ページの「地域づくり型生涯学習」と3ページの全体像に示されているが、家庭の記載があるとよい。
- 「地域づくり型生涯学習」の内容について、自分の学びから地域づくりへ変換していく流れはすばらしい。地域の課題とあるが、具体的に示されてもよいのではないか。
- 例えば、地域とのつながりを大切にしていいため、孤独・孤立対策についても示してもよい。SOSが出せるシステム等があるとよい。

(小山委員)

- SDGsの目標11にあるパートナーシップについては、連携という視点から入れていけるとよい。
- 学びの機会について、様々な情報を浴びることで新たな学びにつながっていく。場づくりについて示されることも検討していただきたい。
- ネットワークの重要性について、それぞれの分野が縦割りとしてとらえるのではなく、横のネットワークでつながる場をつくれるようにしていけるとよい。

(丹羽会長)

- 事務局には、本日の意見をまとめていただき、指針の策定をお願いする。

(以 上)